

皆さんは何か将来の夢はありますか。高校生の私たちは、まだ職業についてよく分からないのに進路を決め、そしていつか一人の人間として自己実現をしなければなりません。私たちは皆「人権」が保障されています。つまり、私たちには自由に生きる権利があるのです。しかし、この権利があるという事は自分自身の力で未来を切り開かなければならないという事です。私もやはり、漠然とした将来に不安を感じています。そこで、知り合いの方で、様々な職業に就いていらっしゃる方々に直接お話を伺ってみました。

まず、歯科医の方のお話です。

「この仕事に携わるまで、自分がお金を貰うのにも関わらず、お礼を言われた事はなかった。この仕事をして初めて、患者さんが私にお金を払うのにも関わらず、ありがとうと言ってくれた。その言葉を聞いた時、自分の仕事のやりがいを感じた。」と、おっしゃっていました。

次に国会議員の方です。

「私の仕事のやりがいは、自分がこの国を良くしたいといつも思っている事に直結している事だ。自分の政策が実現した時や、賛成できない政策を潰す事が出来た時にそのやりがいを感じる。」

と、おっしゃっていました。

次はタクシー会社の社長の方です。

「私が仕事にやりがいを感じる時は、お客様から苦情の電話を受けた時に、そのお客様に謝りに行き、自分の気持ちが通じて、頑張ってくださいと言われた時や、仕事で稼いだお金を自分の子どもの将来のために役立つ事に使えた時。」と、おっしゃっていました。

最後は弁護士の方です。

「私が仕事にやりがいを感じるのは、若い弁護士を育てる時。私は自分が結果的にこの仕事に携わる事が出来た以上、もし他の仕事を選んでいたらもっと幸せだったかもしれないなどという事は考えない。そんな事を考える事は不幸だ。今、自分がしている仕事をどれだけ一生懸命にやっても満足できるかが大切。」

と、おっしゃっていました。

これらのお話を伺って私が感じた事は、まず4人の方の仕事に対する熱意です。熱意を持って仕事をすると、どんな仕事でもやりがいを感じる事が出来るのだという事を実感しました。人それぞれ様々な生き方がありますが、今自分がしている事にどれだけ一生懸命になり、今の自分にどれだけ満足する事が出来るか、それは選んだ職業などには関係なく、自分次第だという事も実感しました。

ぜひ、この方々のお話を、今後の人生の参考にしてみてください。(E・I)

感想も、ぜひお寄せください。

★話し合ってみよう！★

前回掲載されたフリーダム第四号の記事「全国高校生集會に参加して」の感想を、スタッフ一同で出し合ってみました。

◇ これを読んで、もっと考えていかなければと思いました。

◇ 自分の周りには、部落問題とかはあまり身近じゃないから、ふだんは考えたりしないけど、この記事を読むと、身近であつても気づいていないことがあると思う。だからもっと考えなければいけないと思いました。

◇ 人権について、今までまったく考えてこなかった人でも、これを読んで、考えることができるんじゃないかなと思った。

◇ 自分は、「全国高校生集會」というものがあることも知らなくて、部落の人とか差別のことがまったく視界に入っていなかった。そんな人が多い中で、筆者が部落差別のことや自分の思いを、前向きに訴えていこうとしていることは、すばらしいと思いました。

◇ 今まで身近に、差別や部落問題があることはあまり知らないで来たが、この記事を読んで部落差別について知った人は、決して部落のことを偏見をもって見たりしないと思う。このような差別がなぜなくならないのか？

◇ 記事は、自分の意見がきちんと書かれていて、よくわかりました。

◇ 差別の問題は、みんなもつと意識して考えていかなければ、と思いました。

◇ 差別は今でもなくなっていないと感じた。

◇ 部落差別以外にも、男女差別とかなくなっていない差別はたくさんあるけれど、少しでもなくしていきたいようにしていきたい。

記事を書いたスタッフより：

◇ いままで部落のこととか知らなかった人が知ってくれたり、興味を持ってくれたようなので良かったです。

“エコキャップ キャンペーン”について

*** 高田商業高校スタッフ3名が、同校前生徒会長のSさんに聞きました ***

K n エコキャップキャンペーンについてお聞きしたいと思いますが、生徒会長としてボランティア活動全体についても教えてください。

S さん 高田商業では年3回の全員参加の地域のクリーンキャンペーンを行っており、ボランティアには大変熱心です。生徒会では本年度はペットボトルのキャップを集めてNPO法人に寄付をし、それでワクチンを買って世界の子供達に贈るという取り組みに参加しました。キャップは1キログラムで15円ほどになるそうです。高田商業では3か月で約3万個のキャップを集めました。今後も続けて行けたらと思っています。

K t Sさんは奈良県の高校生全体のボランティア活動にも参加して来られたと聞きましたが。

S さん はい、昨年インターハイで私たち奈良県の高校生はボランティアとして参加しましたが、その時のおもてなしが他府県の方から大変誉めていただくものでした。それで、今年は奈良県高校生社会参画活動推進連絡会を作り、各高校の生徒会長などが話し合っ代表8名を選びました。私も選ばれましたが、その8名が県内の高校生のボランティア活動を計画し、推進してきました。

Y どのようなボランティア活動を行いましたか。

S さん 平城京遷都1300年祭のキャンペーンのビラ配布や近畿総合文化祭のビラ配布などに参加しました。また、10月には県内のすべての高校が参加してクリーン大作戦(清掃活動強調月間)を計画して行いました。

K n・K t・Y 本日はお忙しいのに“Freedom”のインタビューにお答えいただきありがとうございます。大学に進学されてもボランティア活動頑張ってください。

S さん はい、パラリンピックのボランティアにも参加できればと思っています。ありがとうございます。

編集後記

◆今年もフリーダムをよろしくお願ひします。創刊三年目に入り、第五号の発行となりました。さて、記事を書いていて、やはり気になるのは、読者のみなさんの反応ですね。

◆今回は、前号の「全国高校生集會に参加して」について、筆者の思いや部落差別などの現実にどう向き合うかをスタッフ同士で話し合いました。こんな話し合いの場が、いろいろなところで広がってほしいなあと思っています。



高校生の人権広報誌

“Freedom” 第5号 (2011年1月11日発行)

編集 “Freedom” 編集スタッフ

発行 奈良県高等学校人権教育研究会

〒630-8133 奈良市大安寺 1-23-1

奈良県解放センター内

TEL 0742 (62) 5555 FAX 0742 (62) 5568

E-mail kodokyo@kcn.ne.jp

HP http://www1.kcn.ne.jp/~kodokyo/

※ご意見・ご感想や投稿などは、各校人権教育担当の先生または上記までお寄せください。

※本誌のバックナンバーは、高人教ホームページの「活動報告」にて閲覧できます。(「高人教」で検索してください)

※本誌の発行は奈良県教育委員会の事業委託をうけています。